19日本国特許庁(JP)

@実用新案出願公開

② 公開実用新案公報(U) 平1-177364

❷考案の名称 ドアインサイドハンドル

②実 頭 昭63-73373

❷出 願 昭63(1988)6月3日

砂考案者 石 坂

巌 神奈川県横須賀市田浦港町無番地 関東自動車工業株式会

社内

勿出 願 人 関東自動車工業株式会

神奈川県横須賀市田浦港町無番地

社

邳代 理 人 弁理士 福留 正治

切実用新案登録請求の範囲

ドアトリム面の凹部に、ドア開閉用ハンドル及 びロックレバーがそれぞれ車室内方向へ回動操作 されるように端部が支承されているドアインサイ ドハンドルにおいて、

前記ロックレバー面にレンズを設けると共に、このレンズを前記ロックレバーの非回動操作位置でヘッドランプと連動して点灯することにより前記ロックレバーの裏面側から光照射する発光体を前記凹部に設け、

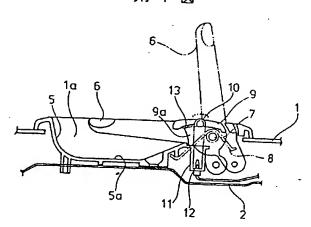
前記ロックレバーの裏面における非支承側へ前 記レンズと隣接する部分に、前記ロックレバーの 前記アンロック位置への回動操作位置で前記発光 体からの入射光を前記凹部の車室内から見える部 分へ向けて反射する反射板が設けられていること を特徴とするドアインサイドハンドル。

図面の簡単な説明

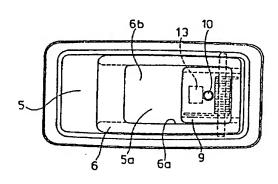
第1図〜第4図は本考案の一実施例によるドアインサイドハンドルを示すもので、第1図はロック状態の断面図、第2図はロック状態の正面図、第3図はアンロック状態の断面図及び第4図はアンロック状態の斜視図並びに第5図は本考案の別の実施例によるドアインサイドハンドルの斜視図を示す。

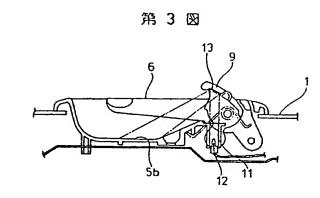
5……ペゼル、5 a……ペゼルの底面、6,2 8……ドア開閉用ハンドル、9,29……ロック レバー、10,30……レンズ、12……バル ブ、13……反射板。

第 1 図

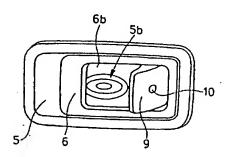


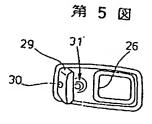
第 2 図





第 4 図





公開実用平成 1-177364

19 日本国特許庁(JP) 印実用新案出願公開

◎ 公開実用新案公報(U) 平1-177364

Slnt. Cl.4

識別記号

庁内整理番号

❸公開 平成1年(1989)12月19日

E 05 B 1/00

 $\begin{smallmatrix}3&0&1\\3&1&1\end{smallmatrix}$

41/00

M-7521-2E S-7521-2E H-7805-2E審査請求 未請求 請求項の数 1 (全 頁)

ドアインサイドハンドル 会考案の名称

> ②実 願 昭63-73373

頤 昭63(1988)6月3日 @出

⑩考 案 者 坂 石

黈

神奈川県横須賀市田浦港町無番地 関東自動車工業株式会

社内

の出 願 人 関東自動車工業株式会 神奈川県横須賀市田浦港町無番地

社

②代 理 人 弁理士 福留 正治

1.考案の名称

ドアインサイドハンドル

2. 実用新案登録請求の範囲

ドアトリム面の凹部に、ドア開閉用ハンドル及 びロックレバーがそれぞれ車室内方向へ回動操作 されるように端部が支承されているドアインサイ ドハンドルにおいて、

前記ロックレバー面にレンズを設けると共に、 このレンズを前記ロックレバーの非回動操作位置 でヘッドランプと連動して点灯することにより前 記ロックレバーの裏面側から光照射する発光体を 前記凹部に設け、

前記ロックレバーの裏面における非支承側へ前記レンズと隣接する部分に、前記ロックレバーの前記アンロック位置への回動操作位置で前記発光体からの入射光を前記凹部の車室内から見える部分へ向けて反射する反射板が設けられていることを特徴とするドアインサイドハンドル。

1

741

公開実用平成 1-177364



3.考案の詳細な説明

(産業上の利用分野)

木考案は、夜間において操作位置を明示するための照明付きドアインサイドハンドルに関するものである。

〔従来の技術〕

ロックレバーの先端に赤を着色してロック解除の確認を行わせるのが在るが、暗闇では役に立たない。そこで、夜間の操作を考慮して運転席でロックスイッチを解除した時に数秒間点灯してハンドル位置を視認させるのもある。

(考案が解決しようとする課題)

しかしながら、このような照明方法ではロックスイッチを操作しなければ視認は不可能であり、またロック及びアンロックの区別はできなかった。

よって、本考案は、1個の発光体でハンドル位置の表示のみならず、ロック及びアンロックを光で確認させ得るドアインサイドハンドルを提供することを目的とする。

(課題を解決するための手段)

本考案は、この目的を達成するために、ロックレバー(9)の面にレンズ(10)を設けると共に、このレンズをロックレバー(9)の非回動操作位置でヘッドランプと連動して点灯することによりロックレバー(9)の裏面側から光照射する発光体(12)を凹部(1a)に設け、ロックレバー(9)のアンロック位置への回動操作位置で発光体(12)からの人射光を凹部(1a)の車室内から見える部分へ向けて反射する反射板(13)が設けてある。

(作用)

ロックレバー(9) の非回動操作位置において、 レンズ(10)はヘッドランプの点灯時には常時発光 体(12)により裏面から照明される。

アンロック位置への回動操作位置では、反射板(13)が変位して光照射され、その反射光で凹部(1a)の車室内から見える部分(5b)が照明される。

(考案の実施例)

公開実用平成 1─177364

第1図~第4図は本考案の一実施例によるドア インサイドハンドルを示す。

第1回において、5は、ドアトリム1を閉口してドアインナパネル2間に形成された凹部1aに表だれているベゼルである。6はドア開閉回り、表面に力形状の関口 6a(第2回期口 6a(第2回期口 6a(第2回期口 6a)を放射するように付勢されているように付ります。間 6aには、ロックレバー9が、操作に回じている。間 6b にな原位は、ロックレバー9が、操作の回動に、間 6aには、ロックレスー9が、操作の回動に、間 6aには、ロックレスー9が、操作の回かに、間 7 に変換して同様にいの回動に、間 6 なック位置及び車室内の回動に、側部のロック位置は、1 5 a に支承されている。

このような構造日体は周知のものであるが、本 考案によりロックレバー9の表面にレンズ10が埋 め込まれている。そして、そのロック状態でこの レンズに対向するベゼル5の端部位置に車幅方向 の筒11が形成され、その内部にレンズ10を光照射 する発光体としてのバルブ12が収納されている。 このバルブは、ヘッドランプと連動して点灯する。また、ロックレバー9の裏面におけるレンズ10と非支承側へ隣接する部分には、反射板13が収付けられている。この反射板は、第3図に示すように、ロックレバー9がアンロック位置に回動操作されると、レンズ10に代ってバルブ12に対面してその入射光をベゼル5の円状の底面5aへ開口6aを通して反射する角度に設定されている。

أحرره

夜間において、ヘッドランプが点灯されると、 連動してバルブ12も点灯する。ロックレバー9が ロック状態にあると、第1図に示すように、バル ブ12にレンズ10が対面し、その発光によりロック を確認できる。筒11の存在によりその照射光は紋 られて反射板13にはほとんど入射しない。

一方、アンロック状態に在ると、バルブ12の照射光は、第3図に示すように、代って反射板13に入射してベゼルの底面5aへ向けて反射する。したがって、隙間6bを通して車室内から第4図に示すような照明部分5bが見え、一方レンズ10は発光しないためにアンロックを確認できる。

公開実用平成 1−177364

尚、前述の実施例において、ロックレバーは開閉用ハンドルの開口に挿入されているが、第5図に示すように、ベゼルの反対端に取付けられてハンドル26及びロックレバー29の非支承端回士が対向した構造のドアインサイドハンドルに対しても、レンズ30及び凹部見通し部分31を照明する反射板(図示せず)を装着して本考案を適用できる。

(考案の効果)

以上、本考案によればヘッドランプの点灯中は 常時ドアインサイドハンドルの位置を視認でき る。また、ロックレバー面のレンズが発光するか 又は近辺のトリム面凹部が発光するかによりその ロック・アンロックを確認できる。

4. 図面の簡単な説明

第1図~第4図は本考案の一実施例によるドアインサイドハンドルを示すもので、第1図はロック状態の断面図、第2図はロック状態の正面図、第3図はアンロック状態の断面図及び第4図はアンロック状態の斜視図並びに第5図は本考案の別

の実施例によるドアインサイドハンドルの斜視図を示す。

5 … ベゼル、 5a… ベゼルの底面、 6、26… ドア閉閉用ハンドル、

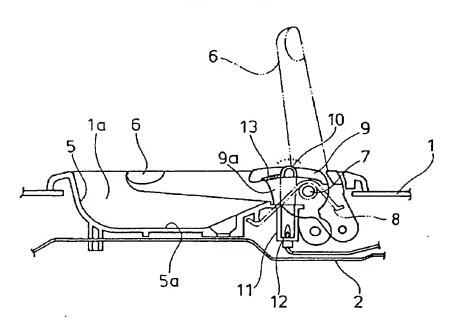
9、29… ロックレバー、 10、30 … レンズ、

12…バルブ、 13… 反射板。

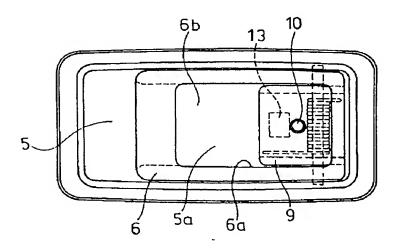
代理人 福 留 正 治

公開実用平成 1-177364

第 1 図

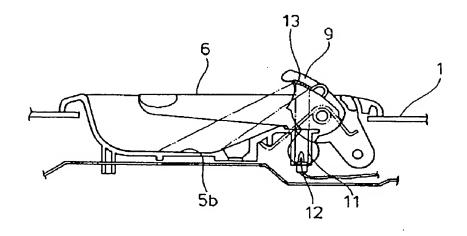


第 2 図

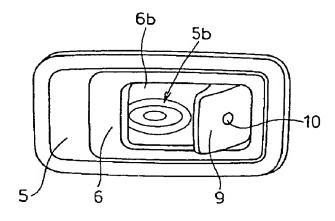


748

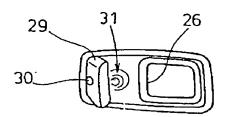
第 3 図



第 4 図



第 5 図



749

実関1-177364